

## 第9回 ITS 世界会議シカゴ2002 のまとめ

米国の今回の世界会議について、いろいろと反響があり総じて論ずるのは難しいのですが下記のようにまとめました。

1) ITS が普及を推進する段階から、実ビジネスが期待される段階に入り、経済が冷えているなかで何か今後のビジネスにつながるものがないか、あるいは ITS が今後どうなるのかヒントを掴もうという意識が強くありました。また、ITS がスタートして北米では3回目の世界会議となり、今後 ITS をどうすべきか重要な時期に差し掛かっております。このような中でのシカゴ世界会議は残念ながら十分期待に応えるものではありませんでした。

2) 世界会議として“会議”は行われましたが、ITS をどのように考えていくのか、世界会議開催者の主張が十分に伝わってこなかったように思います。開会式、閉会式、セッション、展示等の中でそれを探しても ITS の方向性が浮かび上がってこないように思いました。これは、我々自身も考えて行くべき課題であり、2004 年日本で開催される世界会議への重い検討課題でもあると思われました。

3) 米国の広い施設や物量の豊富さは、日本とは比較になりませんが、それだけで世界会議が左右されるものではないことが一層明確になりました。日本関係の展示は、自動車と情報通信の融合が具体的に示され、日本が ITS をリードしている状況が示され説得力のある展示でした。日本の ITS への世界の注目も大きいものがあり、その期待に応えるべく、一層の努力が必要と思われました。

4) 2004 年を意識した PR 活動を、展示、セッション等あらゆる場面において積極的に行い今回の世界会議の場を十分活用いたしました。予定通り 2004 年展示販売を開始し、作成パンフレットの配布 PR 活動を行いました。閉会式の ITS Japan ビデオも、効果的な演出ができました。

5) 2003 年マドリッドへの取り組みについて、シカゴ世界会議終了後の BOD 会議(世界会議・理事会)にて ERTICO の 2003 年マドリッドへの組織委員会的一端が紹介されました。組織委員長 O. モッセ氏(ERTICO 事務局長、CEO、第1回世界会議以降すべての世界会議の経験者)、プログラム委員長 M. ローエル氏 (ERTICO Supervisory Board, ISO/TC204 委員長、世界会議経験豊富)、プログラム・ダイレクターとして E. サンプソン氏 (ERTICO 元 Supervisory Board 議長、世界会議経験豊富)、Mr. J.J. クラインハウト氏(欧州 SA 推進者、オランダ DOT、世界会議経験豊富)、Ms. O. ピグニー女史(ERTICO, 世界会議経験豊富)、スペイン代表、と世界会議経験豊富な最強の布陣にて取り組むことを印象付けました。2004 年日本の世界会議を見通したとき、今後の ITS を方向付ける取り組みが必要と身が引き締まる思いでした。

なお、この BOD 会議にて、2006 年第 13 回 ITS 世界会議ロンドン開催が確認されました。

6) 今回の世界会議準備に関して、アジア各国/地域の参加に配慮した取り組みをしてきたが、結果的にビザ発行手続き不備により ES、SS に欠員が発生し、セッションに影響が出ました。今後の海外対応についての教訓となりました。

7) 10 月 13 日(日)に 8 加国が集まり ITS AP 会議が行われました。アジア世界会議内の連携について論議が行われ、今後の ITS AP フォーラムに関して、2005 年インド、2006 年香港が決定されました。また、ITS Japan から、今後の ITS AP の取り組みの具体化、プリ & ポストツアーの依頼等の提案をしました。アジア内の連携会議として貴重な会議でした。

8) 10 月 16 日昼に ITS Japan と 3 極とアジア代表を含め、2004 年世界会議に向けての意見交換会が行われました。この中で、世界会議のフェーズが変わりつつあり、ITS の課題として安全の取り組みが大きく、また ITS の一般への浸透が重要であること、安全は不朽の課題であること、ITS 浸透にメディアの巻き込みが不可欠であること等の建設的な意見が出され、われわれの方向性と一致し大変今後の参考になりました。

以上